岡山県立博物館だより

32号
3月31日
1989

新収蔵資料紹介

楯築神社
旋帯文石の複製

旋帯文石は，自然石の形をそのまま利用して整形されているが，文様の彫刻は，始めに尖った槌でたたき，粗削りを加えた上で，研磨と線描を繰り返して施す極めて丁寧なものである。弥生時代の石造彫刻としては，他に例のない貴重な遺物と言える。

正面には，人面が造り出されていて，この部分は，後世に目や口を彫りつけられて荒れているが，元は細い線描で描かれていたらしい。現在，鼻は欠けているが，隆起した鼻が造りだされていた跡を止めている。

昨年から一年間，文化庁の模型製作開始以来，数回に渡って楯築神社の旋帯文石を詳細に観察する機会を持った。

旋帯文石の文様は，極めて複雑な構成になっているため，よほど詳細に観察しても全体的な構成を理解することは容易でない。その点では，複製の製作は全体を多様な角度から観察する，絶好の機会を提供してくれた。

この文様は，一般的には特殊器台に現れる文様の仲間であることに異論はないが，特殊器台の文様が横に帯状に展開する文様であるのに，旋帯文石の文様が立体的に作られているというだけてなく，文様自体の基本構成において特殊器台の文様とは違った特色を示している。

ほぼ全面にわたって，文様構成の核となる小円を取り巻く帯の渦の構図が展開しているが，この渦を作る帯の数は，ほぼ三本で構成されている。左右の側面に各一か所だけ二本構成の渦があるが，その他は，すべて三本の帯の組み合いで表現されている。

この特色は，特殊器台の文様の渦が，一本，あるいは二本の帯によって構成されていることと比較して，決定的な違いを示すものである。

帯の端を示す表現と推定されるイチョウの葉のような形をした文様が二か所に現れている。一か所では，この帯端表現の通例である二帯対の表現が現れているが，他の一か所では一帯だけの表現となっているのは，全体の文様構成が三本の帯によっているためであろう。

この帯端表現と対応するように，一本の帯が内部から表面に出現する状況を示す渦も，上面の前よりに一か所と，下面に二か所の，合計三か所に確認される。この渦は他の渦と異なり，巻き出す帯がしだいに幅を広げて出現する図として描かれている。

昭和63年度事業報告

特別展

瀬戸内に生きる

10. 22～11. 20

多島海の美しい景観を織りなす瀬戸内海は，古くから海上交通の要路として重要な役割を担うとともに，文化の交流・伝播の大動脈としても機能した。また，瀬戸内の豊かな資源と温和な気候を背景として展開された生産活動や文化の様相は，わが国の産業経済や伝統的な文化形成の上でも大きく貢献してきた。

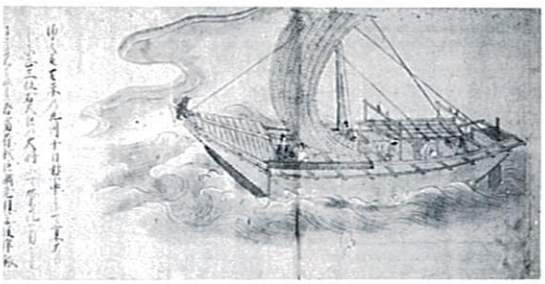
そこで，本年度の特別展は，「瀬戸内に生きる」と題し，瀬戸大橋の完成を契機として瀬戸内地域で展開された歴史を回顧し，そこに生きてきた人々の営みの足跡をたどろうと企画した。展示は，国宝２件・重要文化財10件を含む約200件に及ぶ様々な歴史資料で構成した。なお，会期中の11月５日（土）には，関西大学文学部教授河野通博氏による「瀬戸内の暮らし－内海漁業を中心に－」と題する講演会を開催した。

展示内容は，瀬戸内海で展開された歴史的諸相と同地域における生産・生業の二部構成とした。前半では，古代から近世に至る海上交通の実態と変遷，海の信仰及び内海を拠点とした水軍（海賊衆）の動向をみた。一方，後半では古くから発達した製塩業や漁業・藺業などの在来産業の発展とそれらに従事した人々の生活の実態に触れてみた。

それでは，観覧者の方々が関心をもたれたいくつかの展示コーナーを列挙しよう。

まず冒頭では，中世の絵巻物等に描かれた瀬戸内海の様子を紹介した。重要文化財「北野天神縁起」・「法然上人絵伝」では，ともに配流地へ赴く悲哀に満ちた瀬戸内の船旅の場面を展開した。また，重要文化財「琴弾宮縁起」では，観音寺琴弾宮の草創にまつわる物語の展開上，瀬戸内海が重要な舞台として登場する。

展示室風景



北野天神縁起（兵庫 津田天満宮蔵）

内海における海上交通の歴史的推移を概観した中では，中世における瀬戸内海の海上輸送の様子を知る上で，「兵庫北関入船納帳」は極めて興味深い史料であった。この史料は現在の神戸港に入港する船舶に賦課された関銭の徴収簿である。その積荷には，塩・米・雑穀のほかに海産物・備前焼などが記載され，瀬戸内海地域における当時の活発な生産活動を彷彿とさせた。

近世に確立された北国と上方を連結する流通体系により，この経路にあたる瀬戸内の港町は，一層多くの廻船で賑わった。島根県浜田港外の浦に残る「諸国客船帳」は，廻船問屋の得意先名簿であるが，その中には，備前・備中の廻船も多くみえる。今回同時に展示した邑久町尻海若宮八幡宮の「廻船図絵馬」に記載された船舶名と奉納者名が，同帳にみえ，活発な商業活動を裏づけるものであった。

また，海の信仰としては，瀬戸内海の島々に点在する古代の祭祀遺跡や，厳島・大三島への信仰に焦点をあてた。特に，平清盛と頼盛が奉納した国宝の「法華経」や重要文化財「舞楽面」などの厳島神社の御宝物や赤間神宮の「源平合戦図」により，平家一門の栄枯盛衰を偲ぶことができ観覧者の目を引いていた。

一方，中世の瀬戸内海には，海賊衆が割拠，時として合戦の舞台ともなった。中でも，能島・来島・因島の三島村上勢力は，内海航路の要衝を押さえ，瀬戸内の制海権を一時期掌握した。今に残る古文書や通行許可証は，海賊衆の活躍ぶりを象徴するものであった。

後半では，瀬戸内地域の生活と生業をテーマに展示構成した。平城京出土の木簡によると，調・庸として備前から塩や水母等の海産物が貢納され，古くから海に生活の糧を求めたことがうかがわれる。換言するならば，当地域における平野部の狭隘さゆえ，農業生産のみに立脚できず，海及びその周辺に生活の基盤を求めた人々の生きざまをみることができよう。

近世中期以降の内海漁業では，商業資本による網元制のもと，勇壮な鯛網漁等が展開され，瀬戸内の豊かな鮮魚が各地の市場に輸送された。しかし，一方，土地所有を基本とする近世封建社会の網からもれた零細な漁民も見落とすことはできない。彼等は，漁船と住居を兼ねた船に乗り，小規模な手繰り網や一本釣漁を基本に瀬戸内海の漁場を巡

り，また各地に移住・定着した。この専業漁民の姿こそ，瀬戸内という地理的環境の制約下で展開された内海漁業の本格的な姿を反映したものではないであろうか。この内海特有の漁業形態は，戦後の高度経済成長という社会構造の変化の中で，急激に衰退・消滅していった。いまでは，僅かに残った民俗資料にその姿を偲ぶことができるのみとなった。入館者は，漁民の労苦と汗が浸透した漁具や生活用具に，漁撈生活の厳しい実態を感受していたようである。

現在，瀬戸内地域においては，産業及び観光開発が進行する一方，環境汚染問題が提起されるなど，大きく変貌を続けている。この展覧会を通じ，将来の瀬戸内海のあるべき姿を展望する機会を提示できればと考える。

主な出品物

◉国　宝
◎重要文化財
○県指定重要文化財

瀬戸内海の歴史的諸相

・絵巻物等に描かれた瀬戸内海

大日本道中図屏風	東京　三井文庫
◎北野天神縁起	兵庫　津田天満宮
◎法然上人行状絵伝	奈良　当麻寺奥院
◎琴弾宮絵縁起	香川　観音寺
法然上人伝法絵（断簡）	岡山県立博物館

・瀬戸内海の海運

船型埴輪	大阪　泉大津高等学校
兵庫北関入船納帳	京都　燈心文庫
諸国客船帳	個　人
他国行願留帳	岡山大学附属図書館
廻船図絵馬	岡山　若宮八幡宮
尻海村絵図	岡山　邑久町教育委員会
尾道絵屏風	広島　浄土寺
奉納廻船	岡山　石門別神社

・海の信仰

大飛島祭祀遺跡出土資料	岡山　笠岡市教育委員会
◉法華経（巻七・巻八）	広島　厳島神社
◉太刀　銘友成作	広島　厳島神社
◎舞楽面	広島　厳島神社
◎七絃琴	広島　厳島神社
◎御判物帖（「中原業長書状」）	広島　厳島神社
安徳天皇縁起絵	山口　赤間神社
◎銅製水瓶	愛媛　大山祇神社
○三島家文書	愛媛　大山祇神社

・瀬戸内海の水軍（海賊衆）

宮窪瀬戸海底出土常滑系大甕	個　人
○浄土寺文書（「足利直冬禁制」）	広島　浄土寺
村上武吉標旗	個　人
村上吉充画像	個　人
○因島村上家文書	個　人

瀬戸内地域の生業と生活

・草戸千軒町遺跡

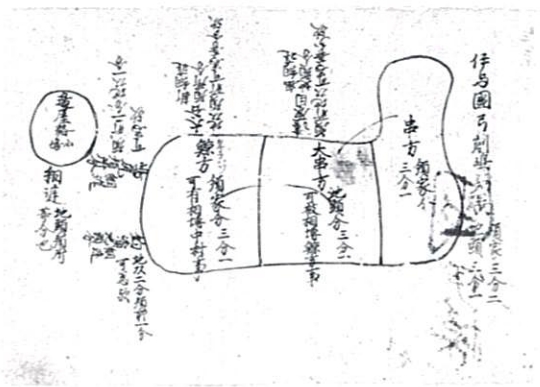
草戸千軒町遺跡出土資料	広島　草戸千軒町遺跡調査研究所

・在来産業の発達

製塩土器	岡山　邑久町立郷土資料館
◎東寺百合文書	京都府立総合資料館
明石浦赤穂塩田図屏風	東京　たばこと塩の博物館
厳島図屏風	東京　サントリー美術館
製塩用具	兵庫　赤穂市塩業資料館
製塩用具	広島　福山城博物館
月の輪古墳出土鉄鏃	岡山　柵原町教育委員会
殖蘭図巻	個　人
◎赤韋威大鎧兜	個　人

・内海漁業の展開

縄文・古墳時代漁具	岡山県立博物館
江戸時代漁具	山口　岩国徴古館
鯛網漁図絵馬	香川　恵美須神社
◎内海漁業漁具	香川　瀬戸内海歴史民俗資料館
○児島湾干潟漁業図絵馬	岡山　御前神社
西大寺観音院境内図	岡山　観音院
浮鯛絵巻	広島　三原歴史民俗資料館
浮鯛抄	個　人
内海漁業漁具・生活用具	広島　因島市史料館
内海漁業漁具・生活用具	広島　三原歴史民俗資料館



弓削島庄下地中分図（京都府立総合資料館蔵）

テーマ展

木工と技術

7．20～9．18

日本人ほど，生活のなかに，木を利用してきた民族はないと言われている。私たちの祖先がつくり，使ってきた民具のなかには，木で作られた物が多い。衣・食・住の生活のうち，住まいにおける調度品は勿論のこと，食生活では調理用具や食器に木製のものがみられ，また身につけるものとしては履物にも木が重要な役割を果たしてきた。

今回の展覧会では，民俗資料の中から木のうつわと履物を取り上げ，盆・椀といった挽きものや，曲げもののひしゃく，桶の制作，そして下駄の製造といった急速に失われつつある伝統産業に注目して，それぞれの製作道具類や技術的な特徴を紹介することにした。

また，県内に残る古い時代の木工品のうち，そういった技法に基づいたものを展示して先人が築いてきた技術のありかたについて展観したものである。

桶の製作道具類

主な出品物

資料名	所蔵者
曲物蓋板〔岡山市上東遺跡出土・弥生時代〕	岡山県古代吉備文化センター
ひしゃく〔美作国府出土・奈良時代〕	〃
下駄〔鏡野町沖遺跡出土・鎌倉～室町時代〕	〃
曲物桶〔広島県草戸千軒町遺跡出土・南北朝時代〕	草戸千軒町遺跡調査研究所
太鼓胴（曲物）〔永禄3年(1560)銘〕	阿波村　八幡神社
高杯・木地椀	本　館
ろくろ・かんな	〃
ひしゃく・茶釜じゃく・五合じゃく	個　人
縫いばさみ・縫い針・平銑	〃
ため桶および製作工程	〃
外銑・内銑・正直・まえがんな	〃
下駄製作工程	本　館
たつ・まるすき・なかすき・ひらすき	〃

テーマ展

金工刀装具の美

9．7～10．18

江戸時代の金工品の中でも，武士の持ち物である刀剣の装備は，質実剛健の武士道の流れを汲む地味でわびたものがあり，対極として，平和な都市文化の発達から大名たちのそれにはとりわけ贅を凝らしたものが少なくない。いずれも，直径10cm余りの限定された面積の中のデザイン力の素晴らしさは言うに及ばず，可能な限りの技法と伝統，そして武士の考え方までもが込められているのである。昨年のテーマ展では，わびた鉄鐔を取り上げたので，今回は大名クラスの刀装具に重点をおいて展示した。

今日の日本の電子産業分野において高密度集積型の技術が世界をリードしているが，それはこの江戸時代の限られた面積に可能な限りの技術を投入する金工技術の延長にあるように思える。

また，鐔がどのようにして作られるかをわかってもらうために，鏨をはじめ鐔製作工具類も併せて展示した。

主な出品物

江戸では，後藤派，柳川派，武州派，浜家派，石黒派，吉岡派，大森派，奈良派，岩本派，平田派，尾崎派，伊藤派，川原林派，佐野派，小林派，埋忠派，横谷派，あと山城，水戸，備前，肥後，彦根，長州，加賀，美濃，仙台，播磨などの地域のものを，時代順に展示した。

種類	品　名	産地	作者	時代
鐔	赤銅魚子地這龍図（細川家）		無銘後藤	桃山時代
鐔	赤銅魚子地祭礼図	江戸	柳川直政花押	江戸中期
小柄	真鍮地鳥銅金色江松ニ牛図	江戸	正重	江戸中期
鐔	鉄地金七宝象眼並千鳥図	江戸	無銘平田就行	江戸中期
小柄	四分一磨地天狗の卵図	江戸	川宝斉	江戸中期
鐔	鉄地桃形虫喰彫図	山城	銘理忠	桃山時代
小柄	朧銀石目地笹龍胆唐草図（備前池田家）	備前	君万歳全刀銀彫刻土屋守親謹作之花押	江戸末期
鐔	鉄地鉄仙花生透図	備前	銘正阿弥勝義	江戸末期
縁頭	赤銅地源平合戦図	彦根	江州彦根住藻柄子入道宗典	江戸中期
縁頭	赤銅地深彫金銀象眼秋草虫図	美濃	美濃住光仲	江戸中期

ほか合計189点。

巡回展

岡山県の歴史と美

11．12～11．14

大原町中央公民館

今回で16回目を数える巡回展であるが，本年度は晩秋を迎えた美作路の大原町を会場に実施した。本館の普及事業の一環であるこの展覧会は，館蔵資料の中から優品を選定して，「岡山県の歴史と美」を鑑賞していただくものであった。とくに今回の展示資料の中でも，当地に関わるものとして昭和50年（1975）に大原町川上から出土した密教法具が入場者の注目をあつめていた。その他，美作国出身で浄土宗をひらいた法然の生涯を描いた法然上人伝法絵や鎌倉時代の太刀・景則，桃山時代の備前緋襷大皿・芋徳利といった作品にとくに熱い視線が注がれていた。

この巡回展は，県立博物館を訪れることが出来にくい地方の方々のために県下各地を巡回して市町村と共催で展覧会を開催するものであったが，当初の目的が達成されたと判断したため，今回で終了することとなった。来年度以降はこの巡回展にかわるものとして，県立博物館において企画展を開催する。

出品目録（○県指定重要文化財）

1	旧石器時代	玉野市宮田山出土	後期旧石器時代
2	特殊器台	総社市宮山遺跡出土	弥生時代後期
3	三角縁神獣鏡	出土地不詳（県内）	3世紀
4	首飾り	上房郡北房町出土	古墳時代
5	家型骨蔵器		奈良時代
6	密教法具	英田郡大原町出土	室町時代
7	法然上人伝法絵	断簡	鎌倉時代
8	○宇喜多能家画像		室町時代
9	南村訪雪図	浦上玉堂筆	江戸時代後期
10	米法雨霽山水図	広瀬臺山筆	1807年（文化4）
11	十六羅漢図	藤本鉄石筆	1860年（万延元）
12	本蓮寺文書		室町時代
13	足利義教袖判御教書		1440年（永享12）
14	日禎書状	来住法悦あて	桃山時代
15	地図扇面	古川古松軒筆	1793年（寛政5）
16	歌幅	平賀元義筆	江戸時代末期
17	太刀　景則		鎌倉時代
18	備前焼　水の子岩海底出土摺鉢		室町時代初期
19	備前焼　緋襷大皿		桃山時代
20	備前焼　芋徳利		桃山時代
21	正阿弥勝義金工品　鶏香炉		明治20年代
22	熊野染夜着		江戸時代初期
23	昭憲皇大后下賜化粧道具		明治時代
24	岸田吟香売薬引札		明治時代

博物館講座

恒例となった『博物館講座』を，下記の内容で実施した。本講座は「岡山県の歴史と文化」をテーマに，外部の専門家や本館学芸員を講師とし，館蔵の実物資料を活用しながら郷土の文化遺産を理解しようとする講座である。本年度は，外部講師の方々に貴重な副葬品を出土した北房町大谷1号墳の発掘概要，幕末・明治期における女性教祖の思想，近世の備讃の国境争論について御講義いただき，時代・内容ともにバラエティに富んだものとなった。

テーマ	講師	開催日
吉備の巨大古墳	副館長　高橋　護	5.27(金)
木器と漆芸	主事　八田　眞	
中国山地の産業史	主任　田村　啓介	6. 3(金)
大谷1号墳の発掘概要	古代吉備文化財センター 文化財保護主任　平井　勝	
瀬戸内の海上交通	学芸員　竹林　栄一	6.10(金)
原始古代のゴンドラ型カヌー舟の源流を求めて	学芸員　臼井　洋輔	
江戸時代の絵画	学芸員　守安　収	6.17(金)
幕末・明治期における女性教祖の女性観	清心女子高等学校教諭　妻鹿　淳子	
海岸平野の形成と岡山城下町	副館長　高橋　護	6.24(金)
江戸時代における備讃瀬戸争論	県史編纂室主事　定兼　学	

昭和63年度購入資料

○旋帯文石〔複製〕　1点
（原品・倉敷市楯築遺跡）
弥生時代

○鉄砲放形秘伝書　1巻
明和8年（1771）

○正阿弥勝義金工品　紅葉香合
1点　明治30年代

○熊沢蕃山書状　国枝平助宛
1幅　江戸時代初期

○古川古松軒筆　養老の滝図
1幅　文化2年（1805）

○備中国新見庄内検帳　1巻
寛正7年（1466）

○備前焼　手付菓子皿　5客組
桃山～江戸時代初期

○備前焼　鶴首徳利　1点
桃山時代

○備前焼　摺鉢　1点
室町時代末期

古川古松軒筆　養老の滝図

昭和63年度寄贈資料

○正阿弥勝義金工品　帯止	1点	福岡市	正阿弥謙二
○正阿弥勝義関係資料	17点	〃	〃
○正阿弥勝義関係資料	23点	〃	正阿弥喜和子
○並笛図屏風	8曲1隻	吉永町	井上高太郎
○頼山陽筆　額字	1幀	岡山市	森　昭胤
○桑原家所蔵文書	18点	〃	須田　高成
○木製杵・油屋一合升・道標	3点	山陽町	川澄　勲
○藤原家墓地出土資料	3点	岡山市	中野　芳子
○ひしゃく・弁当箱	6点	落合町	平井勘三郎
○桶製作道具一式	216点	倉敷市	藤原　秀夫
○刀　備前長船祐永	1口	岡山市	土肥　初子
○紺糸威二枚胴具足	ほか213点	犬山市	磯崎　芳彦
		岡山市	磯崎　和彦
○萌葱糸威胴丸具足	1領	〃	服部　克己
○鐔製作工具一式	35点	〃	柳村　重信
○備前焼　大甕	1点	〃	小山　幸夫
○備前焼　手榴弾	13点	備前市	山本　陶秀
○和本　集古十種全廿一巻	21巻	倉敷市	大島　勝

（敬称略）

以上，貴重な資料の寄贈を受けました。永く大切に保管するとともに本館の展示・研究資料として有効に活用させていただきます。ここに御寄贈くださいました方々のご芳名を記入し，厚くお礼申し上げます。

平成元年度事業のお知らせ

○特 別 展　「技術と生活」(仮称)

10. 21～11. 19

私たちの社会は，新しい技術の発明・工夫の蓄積によって発展してきた。それは，私たちの祖先が，より豊かな生活を求め続けた努力の結果であり，この努力こそが人間社会発展の原動力であった。もちろん，各時代の社会体制のなかで，その技術が誰に所有されたかが問題であるが，新しい技術は社会を変え，その当時の人々の生活を豊かにしていった。たとえば，中世の絵巻物などの絵画資料には，当時の人々の生活が描かれ，各種の生活用具がみられるが，これらはその当時の技術水準を示すものといえよう。

今回の特別展は，各時代の人々の，生活と各種技術との関わりを追いながら，技術の歴史的な発達の経過をたどり，技術水準と生活様式の関係を考えるものである。

○テーマ展　「護国山曹源寺」

7. 19～8. 20

曹源寺は，元禄11年（1698）岡山藩主池田綱政の創建になる臨済宗の寺院であり，池田家の菩提寺として幕末を迎えた。

同寺には，綱政以後歴代の肖像彫刻をはじめ，開山以後歴代住職（3・4・15世を除く）の頂相，藩主直筆の書画等が多数伝来し，寺史に関わる古文書・絵図等も数多く残されている。

この展覧会は，曹源寺に伝わる各種の資料を紹介し，藩主池田家の菩提寺としての曹源寺の歴史を明らかにしようとするものである。

○テーマ展　「逸見東洋の芸術」

1月頃の予定

逸見東洋は，幕末から明治にかけての本県を代表する芸術家であり，刀剣・彫金・木彫・漆芸などに多彩な作品を残した。

彼は，弘化3年（1846）現岡山市内生まれ，本名は大吉，号を東洋と称し，作刀では岡崎源五右衛門助隆に，金工では正阿弥勝義に師事して彫金技術を修得した。また，木彫漆芸に秀で独自の道を極め，その堆朱・堆黒・堆白に及ぶ精緻な技術は他に卓越している。

この展覧会では，彼の業績を示す代表的な作品を展示する。

○企 画 展　「岡山県指定重要文化財」

2月中旬～3月中旬の予定

昨年度までの巡回展にかわるものとして，平成元年度から企画展が開催されるはこびとなった。

岡山県は古くから吉備の国として栄え，長い歴史の過程で独自の文化を形成し，現在まで数多くの文化財が伝えられている。

この企画展は，岡山県指定の有形文化財（美術工芸）を一堂に集め，広く一般の人たちに郷土の歴史や文化を紹介しようとするものである。

○博物館講座　「岡山県の歴史と文化」

6. 2～6. 30
各金曜日の5日間

岡山県立博物館だより　No.32
発 行 日　平成元年3月31日
発 行 者　岡山県立博物館
館長　橋本泰夫
岡山市後楽園1-5
☎（岡山）72-1149